世界自然遺産の小笠原にある小学校

小笠原村立 小笠原小学校

平成30年度 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校



World Natural Heritage Ogasawara Islands

界自然遺産小笠原諸島







全体構想図

学習指導要領前文

一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする。

学校教育目標

- ・自分を大切にし、思いやりの心をもとう
- ・夢や目標をもち、たえず学び続けよう
- ・心と体を鍛え、爽やかな感動を生もう

SDGs

持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲット。目標 4 「質の高い教育をみんなに」

保護者の願い

- ・子供が毎日楽しく学校に通えるように。
- ・島のよさを大切にした教育活動を。

児童の実態

- ・幼少期からの人間関係が形成されている。
- ・学年をまたいで仲良く遊べる。

地域住民の願い

- ・小笠原の自然を末永く 守ってほしい。
- ・未来の小笠原の担い手を 育成してほしい。

研究主題

基礎基本の確かな定着を目指して ~言葉の力を育み、生かす授業づくり~

目指す児童像 I

小笠原の大自然を体験し、生き物と遊び、草木と 触れ合い、すべての**小笠原の自然を愛してやまない**児童

目指す児童像Ⅱ

小笠原の未来の担い手として、新たな 「価値観」を創出し、**「行動」の表出ができる児童**

持続可能な社会づくりに向けた教育推進に向けて

世界自然遺産として登録された小笠原の自然について、環境教育の視点から系統的な指導計画を立案し、課題解決的な学習を行い、探究活動に主体的・創造的に取り組む態度と**郷土小笠原への誇りや愛着を育むこと**をねらいとし、生活科及び総合的な学習の時間を中心とした学習活動を展開する。

主題に迫るための具体的な手だて

I 授業改善に向けた取組

II 教科等横断的な 視点による組織的な取組

Ⅲ 外部人材や 地域資源等の活用

○指導計画の見直し・改訂

地域で活躍し、地域を育てる人材の 育成に向けて、学校全体で共通認識の 下に授業改善ができるように、ESD の視点に立った生活科・総合的な学習 の時間を中心とした指導計画の見直 し・改訂を行う。

○言葉の力を生かす場面の設定

国語科で身に付けた**言語の力(コミュニケーション能力や表現力)**を活用する場面として、生活科や総合的な学習の時間を位置付け、計画的・継続的な実践に取り組む。(右図IIとの関連)

○地域発信を活用場面に位置付け

啓発ポスターや発表会を地域向けに 行うことを単元ゴールの一つとする。

○教科等の枠を超えた視点

各教科等の特性に応じた「見方・考え 方」をもち、知識を相互に関係付けてよ り深く理解したり、情報を精査して考え を形成したり、問題を見い出して解決策 を考えたり、思いや考えを基に創造した りするなど、教科の枠を超えた視点を意 識した授業を行い、系統的な指導を年計 画に反映できるようにする。

⇒指導案(指導計画・本時案)に各教科 領域との関連を具体的に明記する。

小笠原諸島返還50周年





○外部講師の招聘

「持続可能な社会づくり」を推進する ために必要な知識や資質・能力について 研修会を開催することで、**教員が共通の 視点をもち**、主体的・対話的で深い学び ができる授業づくりができるようにする。

○人材リストバンクの活用

各学年の総合的な学習の時間や生活科 理科、社会などにおいて、専門講師に指 導・助言をいただく。

○講師・団体の合同ミーティング

小笠原小学校に関わる、講師・団体の 方々との小笠原小学校の総合的な学習の 時間についての方向性を確認する機会を もつ。

I はじめに

小笠原小学校は、昭和43年(1968年)の小笠原諸島の日本復帰に伴い、それまで米軍関係が使用していたラドフォード提督学校の校地、校舎を引き継ぎ、東京都小笠原村立小笠原小学校および中学校として開校した。開校当時、職員8名、児童327名、生徒21名であった。

平成23年6月には、小笠原諸島の豊かで独特な自然の価値が認められ、「小笠原諸島」が世界自然遺産として登録された。そして、米国の統治下から日本への復帰を果たし、平成30年(2018年)で50周年を迎えた。

「世界自然遺産小笠原諸島父島」。このフレーズは、小笠原小学校の卒業式の際に、卒業生が述べる言葉の冒頭に出てくる。6年間の学びを終えた卒業生たちの思いがこの言葉に凝縮されており、自分たちの言葉として堂々と口に出せる姿が小笠原小学校の卒業生とも言える。



本校自慢の全面芝生の校庭。奥に見えるのは二見湾。

II 目指す児童像

父島の子供たちは小中高まではほぼ全員が同じ進路を歩み、高校卒業後は内地に進学・就職している。子供たちは小笠原に対する愛着があり、将来島で働きたいという意欲があるが、戻ってきたくても島での就職先がほとんどないという課題がある。

そのために、郷土に対する誇りや愛着をもつ心情や態度を育成するとともに、小笠原での 生活基盤を開拓できるリーダーとして、地域を「より良くしていこう」という未来像を予測 して、計画・実行できる力を身に付けさせたい。



1年生児童が作ったマイマイ(カタツムリ)へのプレゼント。